

12月2日以降も 紙の保険証を使って医療を受けられます

来月2日からマイナ保険証が本格運用されます。でも、いまある紙の保険証もこれまで通り使って医療を受けられるそうです。

日本共産党の機関紙である「しんぶん赤旗」によると、10月31日、社会保障審議会の医療保険部会が開催され、厚労省の担当者は、委員の質問に答え、不安払拭(ふっしょく)のため、健康保険証の新規発行を止め「マイナ保険証」に本格移行する12月2日以降も現行の保険証が使えることを周知徹底すると明言しました。すでに10月24～30日にほぼ全ての新聞に同趣旨の広告を掲載し、今後、医療機関でもこれまで通りの保険

診療を受けられることを知らせるということです。

10月31日の社会保障審議会医療保険部会では、委員から、12月2日から紙の健康保険証の新規発行を停止するが、「現行保険証が使えなくなると勘違いしている人がいる。不安に思う人がいることは間違いない」と指摘する声がありました。他の委員からも同様の意見が出されました。

厚労省の担当者は「12月2日は1つの節目だが、その日を境に医療現場が大きく変わるものではない」と説明。マイナンバーカードを使ったマイナ保険証を持ってなくても、これまで通り医療にか



かれると説明する「高齢者向けリーフレット」やポスターを新たに作り、医療現場などで周知すると答えたということです。

トラブル続きの「マイナ保険証」についての世論と運動の成果です。

地域防災をどう進めていくか…かきざき福祉まつりで講演会

柿崎区の福祉まつりで防災講演会がありました。講師は「にいがた災害ボランティアネットワーク」理事の会田理恵子さん。テーマはみんなで考える「つながる地域防災」です。

会田さんは柏崎市在住で、中越沖地震を体験されています。まず自分の目で見えたライフラインの状況、地域避難の実態などをリアルに報告しました。電気やガスの復旧は割と早くできていましたが、水道は時間がかかりますね。避難に関しては、「地域の身近な支援の特性を知り、地域のつながりと支援を受け入れるチカラの大切さ」などについてわかりやすく語っていただきました。議会で今後、災害対策を議論していく上で勉強になりました。

会場では、消防署の職員から、スマホ画像を活用して救急車を呼ぶ実演(右のイラスト)もしてもらいました。



くつろぐコウノトリの夫婦。11月14日、撮影。



【ハナナス】ナス科の一年草。漢字で「花茄子」と書きます。先日、ミニトマトがたくさん生っているよう見えたので、近づいたところ、別のものでした。作っているHさんに訊いて「ハナナス」であることを知りました。実は観賞用。薄紫の花を秋に咲かせます。花言葉は「つつましい幸福」「真実」。7日、大島区で撮影。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2180 2024.11.17

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八二七回 リンドウの花

山間部にあるわが家の墓に母の遺骨を納めてから一か月余が経ちました。家の座敷にあった白い骨箱がなくなりました。母に会うためには墓場に行かねばなりません。

この間、私は三回、わが家の墓参りをしてきました。いずれも源地区に用事があった時のついでに立ち寄りしました。一回目の時は納骨時の花を片付けました。二回目は母への報告です。

このうち二回目は一〇月下旬の金曜日です。母がかわいがっていたわが家のネコが死んだことを伝えました。納骨の時に動かし石を再び動かすと、母の骨がよく見えます。そこに向かって、「ばっちゃん、おまんがかわいがっていたよ」も死んじゃったよ」と声をかけました。母が生きていれば、「まあ、かわいそうだな」と言っていることがあったことと思います。

あれっと思ったのは母への報告後です。納骨時、花入れに活けた花は一回目の墓参りで片づけていたはずなのに、墓の前の左側の花入れに紫の花が入っていたのです。そばに行くと、花の一部は枯れているものの、間違いなくリンドウの花でした。

リンドウはわが家の墓場近くの土手にいくつも咲きますが、墓の前に活けられたものは花の数が多く、周辺にあるものとは違うと思います。それでも、「ひよっとすれば、墓の近くにあるリンドウかも知れない。実際にはあったのに、私が気づかないでいただけかも知れない」そう思ってリンドウの茎が折られたものはないか探しました。でも、ありませんでした。

となれば、誰かがどこから持参し、わが家の墓に飾ってくれた、それしか考えられません。こういうことをする人間は私を知る限り、大湊区の弟しかいません。でもその弟は一年前に亡くなっていますので、花を持ってくるわけがありません。では、いったい誰が……。

わが家の墓の場所を知っているのは、虫場の関係者か、わが家の親戚くらいです。その人たちが何かの用事があったて近くにやってきて、ついでにわが家の墓に寄るとは十分考えられます。

それでも、わざわざ墓に寄ってくれるというのにはそれなりの理由、きっかけがあるはずだと思えました。振り返ってみてたどり着いた結論は、私のブログ「ホーセの見である記」、この「春よ来い」を読んでもくれた人ではないかということでした。いずれにも母の納骨のことを書いていました。そうしたなかで、実際、わが家の墓にまで足を運んでくれた人がいたので。これはもう最高につれたいことでした。

十一月八日、わが家の墓がある虫場に帰省しているR子さん宅を訪ねました。帰省しているとの連絡をもらっていたので訪ねたのですが、「ひよっとすればR子さんかも」という思いもありました。今年には豊作だったという大きな甘柿を一個いただいた食べました。虫場の前の山の木々が大きくなったことなどを話しながら、わが家の墓に飾ってあったリンドウの花についても訊いてみました。しかし、R子さんではありませんでした。

その日、私はまたわが家の墓へ行きまし。これで母の納骨後三回目です。二回目の墓参りの時に見つけたリンドウの花はすでに枯れていました。でも何ということでしょう、墓から一歩も離れていない場所に、リンドウが一輪、新たに咲いていたのです。周りのリンドウはすでに枯れかかっているのに、このリンドウだけは夕陽に照らされて美しく輝いていました。

リンドウがこの時期になっても咲いてくれたのは自然の出来事とはいえ、あまりにもうれしい出来事でした。私は夕陽に照らされた花を見ながら、リンドウを活性化してくれた人のことをまた思いました。

浄福寺でチャリティーコンサート



柿崎区の浄福寺で10日、6回目のチャリティーコンサートが開催されました。出演は「クレア」「アンパスの笛」「ピアス」など5組。「昂」や「糸」などの名曲をたっぴりと聴くことができました。

イラストは『ふるさと』を全員合唱している風景です。



上越地域各消防署における

空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり

	11月6日(水)	11月13日(水)
上越消防署	0.053	0.053
上越南消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.040	0.050
名立分遣所	0.053	0.060
高士分遣所	0.050	0.050

29回目の東京吉川会

東京吉川会は9日、昨年に続いて御徒町にある吉池ビルで開催されました。今回は29回目。約50人が参加し交流しました。

総会では主催者を代表して常山正樹会長が挨拶し、市を代表して風間吉川区総合事務所長が市長のメッセージを代読しました。最後に、「まちづくり吉川」の薄波会長が、吉川での能登半島地震被害の状況やコウノトリの動き、猛暑と稲作などについて月ごとに報告し、喜ばれました。

懇親会では、私がコウノトリの

ヒナの誕生とその後の経過について伝えました。みなもとの郷の内藤社長が吉川会創立時の興味深いエピソードを披露しました。会場では思いがけない再会も……。

